

キバネセセリ

澄川森林に入り、物置の鍵を開けて身支度を始めている私の周りをうろちよと飛び回るセセリチョウがいました。小雨模様なのに活発な蝶だなぁと思いつつ私の服に止まってくれたのを観察してキバネセセリと同定しました。蝶ランプ 53 種の中に入れて、描いたのでおなじみでした。雨が止んでお日様が照り始めると段々数が増えてきて、基地テントのまわりを乱舞し、作業で汗ばんだ衣服に止まり汗を吸ってくれるのです。五月蠅いならぬ五月蝶い(ウルチョイ)状態でした。2013 年 7 月 10 日のことでした。

セセリチョウはすばしこい飛び方をします。昔瀬戸内海の客船のデッキで海上を渡るセセリチョウを見た記憶が蘇りました。長距離飛行もこなすのです。キバネセセリは北海道全域と本州では長野県あたりの中部地方とそれより南にゆくにつれ薄くなります。幼虫の食べ物がハリギリ(センノキ)の葉なので、ハリギリの分布にかぶるのでしょう。九州にはいません。花にもよく吸蜜に訪れますし、吸水や吸汗も頻繁です。活発に飛ぶのでエネルギー消費も多いからでしょう。



図鑑「札幌の昆虫」にはセセリチョウ科にはこのキバネを含めて 9 種類が記載されています。三角翼のジェット戦闘機を思わせる姿と跳び方です。静止した形でセセリチョウであることは紛れることはありませんが、同定するには捕獲するか、よりじっくり観察する必要があります。このキバネは他のセセリよりはすこし大きくて明るい黄味のつよい茶色の羽なのでわかり易い方です。



この時期、真夏日が多く本州では熱射病患者が 1,000 人を超えたとか騒がれているにも拘わらず、わが会員は真夏日もなんのその参加者 15 人、藻岩山の幌南の森の看板改修、物置づくり、草刈、薪割りと分担して汗まみれですが、これまでの 10 年の歴史の中で一人の熱射病患者も出ていません。高齢者団体なので誇ってよい実績と思うのであります。